

平成 25 年度 事業報告書

(平成 25 年 1 月 1 日から同 25 年 12 月 31 日)

一般財団法人 運動器の 10 年・日本協会

1. 会員の状況（平成 25 年 12 月末現在）

参加団体会員	46 団体	（前年度から増減なし）
参加協力会員	9 団体	（前年度から増減なし）
支援会員	8 団体	（前年度から増減なし）
特別賛助会員	3 団体	（前年度から増減なし） （エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)）
賛助会員（ゴールド）	3 団体	（1 社増） （小野薬品工業(株)、中外製薬(株)、日本イーライ・リリー(株)）
賛助会員（シルバー）	5 団体	（前年度から増減なし） （旭化成ファーマ(株)、科研製薬(株)、大正富山医薬品(株)、 帝人ファーマ(株)、ヤンセンファーマ(株)）
賛助会員（ブロンズ）	0 団体	
活動支援協力	3 団体	（新規の応募） （サンセイ医機(株)、(株)キシヤ、田辺三菱製薬(株)）

2. 諸会議・会合

評議員会	第 3 回評議員会	2 月 2 日(土)	如水会館	
	第 4 回評議員会	12 月 7 日(土)	如水会館	
理事会	第 1 回	1 月 25 日(金)	明治記念館	
	第 2 回	2 月 2 日(土)	学士会館	
	第 3 回	7 月 4 日(木)	学士会館	
	第 4 回	11 月 7 日(木)	学士会館	
業務執行理事会	第 1 回	1 月 25 日(木)	第 2 回	2 月 14 日(木)
	第 3 回	2 月 28 日(木)	第 4 回	3 月 26 日(火)
	第 5 回	4 月 7 日(日)	第 6 回	5 月 8 日(日)
	第 7 回	6 月 10 日(月)	第 8 回	7 月 31 日(水)
	第 9 回	9 月 10 日(月)	第 10 回	12 月 23 日(水)
会員連絡協議会（兼総会）		4 月 7 日(日)	如水会館	
出席者 >	参加団体会員	30 団体	参加協力会員	1 団体
	支援会員	1 団体	特別賛助会員	3 社
			賛助会員	5 社

3. 主たる事業

1) 学校における運動器検診体制の整備・充実事業及び「スクールトレーナー」養成にかかわる創設の調査・研究（継続事業）

① 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	学校法人日本体育大学日体大総合研究所
委員長	内尾 祐司	島根大学医学部整形外科学教室

副委員長	高橋 敏明	愛媛大学附属病院地域医療支援センター
副委員長	植松 光俊	星城大学大学院健康支援学研究所
(担当理事)		
委員	鬼木 泰成	熊本大学医学部整形外科学教室
	川上 紀明	名城病院
	柴田 輝明	北本整形外科・埼玉県医師会理事
	大工谷新一	岸和田盈進会病院
	高橋 真	高橋整形外科医院・京都府医師会理事
	藤原 聡	神戸リハビリテーション福祉専門学校
	森原 徹	京都府立医科大学大学院医学研究所

② 委員会開催

第1回 4月21日(日) 於：如水会館

第2回 11月30日(土) 於：大阪・ガーデンシティクラブ大阪

③ 事業の概要

第1回委員会(平成25年4月21日)では、昨年度までの学校保健委員会とスクールトレーナー・ワーキンググループを再編統合し、今後の業務の進め方を確認した。

また、昨年11月19日に、文部科学省で行われた第4回『今後の健康診断の在り方等に関する検討会』に武藤担当理事および内尾委員長が参考人として出席、当協会の学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業で明らかとなった運動器疾患・障害の現状や課題を説明するとともに、簡潔かつ効果的な運動器検診体制が求められていることを強調したことを報告した。

一方、日本医師会学校保健委員会と連携し、保健調査票フォーマットの作成のためのアンケート協力について、原案をもとに意見交換を行った。このほか、懸案の「親子のための運動器健康サイト」の内容についても各委員の意見を求め、年度内の完成を目指した。

次に、スクールトレーナー制度の創設に先立ち、「スクールトレーナー」の商標を特許庁に申請していたが、3月29日付で認可された。

制度の創設に当たり、今年度はスクールカウンセラーなどの先行事例との比較研究と、すでに実施している事例の調査や資格認定に必要な内容の検討を進めることとした。

第2回委員会(平成25年11月30日)では、学校の運動器検診モデル事業として実施した、愛媛、埼玉、京都の3府県の実施状況が報告された。

また、日本医師会学校保健委員会でもとめられた中間答申の中で、運動器について、全児童・生徒用のスクリーニング用のマニュアルと患児用の検査項目が整備され、文部科学省に「学校保健の充実に向けた要望書」として提出されたことを報告した。

その後、文部科学省では、7月30日の官庁速報で「2015年度以降に学

校健診で運動器機能の検査拡充を加えたマニュアルの改訂が行われる」ことが公表され、運動器検診の見直しが進められる見通しとなった。

次に、「スクールトレーナー」養成事業について、愛媛、千葉、神奈川の3県で実施されていた活動内容をより詳しく調査した。この結果などを元に今後日本医師会学校保健委員会に協力要請を行うこととした。

また、担当委員から提示された『スクールトレーナーが教える児童・生徒の障害予防の手引き』の原案について各委員の意見を交換、今後理学療法士の立ち位置を明確にした上で、総論をもう一度整理することとした。

スクールトレーナー関連事業として、各校の学校保健委員会にかかわって、運動器の健康に関する相談や講演をするなど、常勤・非常勤の講師として授業を受け持つことも事業の一つとして検討することとした。

以上のほか、26年度の事業として、学校の運動器検診のモデル事業として実施してきた3府県に加え、島根県うんなん市も事業を展開する提案があり、了承された。

2) 中高年の運動器健康推進事業

① 委員会委員の選任

担当理事	田辺 秀樹	(田辺整形外科医院)
委員長	田中 伸哉	(埼玉医科大学 整形外科)
委員	織田 弘美	(埼玉医科大学 整形外科)
	宮島 剛	(埼玉医科大学 整形外科)
	奥田 憲之	(奥田整形外科医院)
	中田 代助	(中田整形外科内科クリニック)
	奥村栄次郎	(奥村整形外科)

② 委員会開催

第1回	4月11日	(木)	於：本郷ハイツ
第2回	6月6日	(木)	於：本郷ハイツ
第3回	7月25日	(木)	於：本郷ハイツ
第4回	9月7日	(木)	於：本郷ハイツ
第5回	10月31日	(木)	於：本郷ハイツ

③ 事業の概要

今年度から中高年の運動器健康推進事業に、大腿骨近位部2次骨折予防啓発ワーキンググループを整理・統合した。

これまで骨粗鬆症による骨折の予防を目的にFRAXを取り入れた住民検診を企画してきたが、行政の協力が得られなかった。第1回と第2回委員会では、今年度はFRAXの質問票を取り入れた資料「骨粗鬆症のおはなし」を作成し、市民公開講座の参加者や医院の受診者を対象に資料を配布し、骨粗鬆症の可能性のある住民に対し専門医受診を勧める方針に転換し実行することとなった。なお、市民公開講座では希望者に対し踵骨骨密度測

定を行った。

9月に2回開催した市民公開講座の受講者260名埼玉医科大学学園祭来場者のうち骨検診を希望したものの154名に対し、「骨粗鬆症のおはなし」を配布した。その結果、合計受診者322名に対しFRAXによる骨折確率の計算と踵骨密度測定を施行することが可能であった。322名中193名に骨粗鬆症の可能性があり、封書により専門医受診を勧めた。

現在、埼玉医大で精査中である。また、3医院に「骨粗鬆症のおはなし」を配布したところ、5ヵ月間で合計90名が新たに骨粗鬆症治療を開始した。骨粗鬆症の啓発およびスクリーニングの手立てとなることがほぼ証明された。

大腿骨近位部2次骨折予防ワーキンググループの活動

① ワーキンググループの委員

山本 智章 (新潟リハビリテーション病院)
緒方 直史 (東京大学医学部附属病院)
岡田 真平 (身体教育医学研究所)
木村 慎二 (新潟大学医歯学総合病院)
高橋 榮明 (新潟リハビリテーション病院)
萩野 浩 (鳥取大学医学部附属病院)
奥泉 宏康 (東御市立みまき温泉診療所)

② 委員会開催

第1回 10月21日(月) 於：本郷ハイツ

③ 事業の概要

現在行われている新潟リハビリテーション病院・新潟大学が中心となって制作された「再骨折予防手帳」を用いて大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防を働きかける取り組みの成果と、日本骨折治療学会が中心となって行う「PHTを用いた大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防」の臨床研究の成果とに、上記をFRAXを改良した問診票を用いた骨粗鬆症の早期発見の成果を加えた三つの成果を元にして行政・メディア・市民等に脆弱骨折の一時予防・二次予防の重要性を訴え、予防制度の確率を目指すことにした。

新潟リハビリテーション病院の山本先生が制作した「再骨折予防手帳」は現在5千部のみしか制作がなされていないため、来年度に全国的に展開できるように賛助会員各社に働きかけ部数の増刷を図る方針。また、学会認定の骨粗鬆症専属のナースを養成する考えもあり、骨粗鬆症学会に協力していく方針。

3) 運動器疼痛対策事業の調査・研究事業

① 事業担当理事 : 牛田享宏、菊地臣一、戸山芳昭

担当委員 矢吹 省司 福島県立医科大学リハビリテーションセンター

内山 徹 内山整形外科
三木 健司 尼崎中央病院整形外科
池本 竜則 NPO いたみ医学研究情報センター
住谷 昌彦 東京大学ペインセンター
山口 重樹 獨協医科大学ペインクリニック
福井 聖 滋賀医科大学ペインセンター
松原 貴子 日本福祉大学理学療法学
その他（加茂淳、小川節郎）

② 委員会開催 毎月1回運営会議を開催、事業の推進を図った。

③ 事業の概要

i) 運動器の痛みの実態および必要性に関する調査（戸山、牛田）

長久手市と連携して、小中高生における痛み及びストレス食習慣の現状について調査を行った。

ii) 運動器の痛みに対する薬や治療方法などについて集約化して情報を集約し発信する事業

HPを通じて発信する事業を推進した。この事業は、運動器の10年・日本協会のHPに『私たちの「運動器の痛み」について考えてみよう』のタイトルで、痛みについて分かりやすく解説を掲載、また毎月専門家のレポートを掲載し、一般市民の理解に努めた。

iii) 運動器の痛み市民セミナーの支援・共催

年度内、下記の市民向けセミナーについて、広報活動の一環として「運動器の10年・日本協会」後援を行った。

1月27日（日） 岡山市 「あきらめていませんか？その痛み」

講師：西原 真理（愛知医科大学学際的痛みセンター）
鉄永 倫子（岡山大学整形外科）

6月16日（日） 高知市 「新たに分かってきた、痛みの治療法」

講師：池内 昌彦（高知大学整形外科）
木田 和伸（高知大学整形外科）

10月20日（日） 東京都千代田区

「その痛み、なぜ周りはわかってくれないのか？」

講師：古田 彩（日経サイエンス編集部）
講師：谷川 浩隆（谷川整形外科クリニック）
講師：浅枝 まり子（患者）

4) 運動器外傷の救急医療に関する委員会

① 委員会の構成

担当理事	三上 容司	横浜労災病院整形外科
委員長	三上 容司	横浜労災病院整形外科
委員	井口 浩一	埼玉医科大学総合医療センター

高度救命救急センター

黒住 健人 帝京大学外傷センター
坂本 哲也 帝京大学救急医学
鈴木 卓 北里大学救命救急センター
土田 芳彦 札幌東徳州会病院外傷センター
野田 知之 岡山大学整形外科

② 委員会開催

第1回 2月16日(土) 於：品川、コクヨホール
第2回 4月12日(金) 於：岐阜都ホテル
第3回 6月27日(木) 於：久留米、萃香園ホテル
第4回 10月25日(金) 於：山形、ホテルキャッスル

③ 視察・調査

期 間：11月24日(日)～30日(土)

参加者：三上容司、井口浩一、黒住健人、松下 隆

訪問地・施設：

オーストラリア・ブリスベン：

Princess Alexandra Hospitalの外傷センター (Schuetz 教授) を訪問。

オーストラリア・メルボルン：

Alfred Hospitalの外傷センター (Fitzgerald教授、Liew教授) を訪問。

④ 報告書等

現在、オーストラリアでの外傷センター調査・視察に関する報告書を作成中。平成24年度に行われた韓国・香港の外傷センター調査・視察に関する報告書とまとめて作成する予定である。

⑤ 学会発表等

発表

- ・黒住健人ほか：日本に実現可能な外傷センターとは ―香港、韓国の外傷センター視察を通して― 第27回日本外傷学会
2013/5/23, 24、久留米
- ・黒住健人ほか：日本に実現可能な外傷センターとは ―香港、韓国の外傷センター視察を通して― 第39回日本骨折治療学会
2013/5/28, 29、久留米

抄録

- ・黒住健人、三上容司、井口浩一、土田芳彦：日本に実現可能な外傷センターとは ―香港、韓国の外傷センター視察を通して― 骨折
35 supplement: s148, 2013.
- ・黒住健人、三上容司、井口浩一、土田芳彦：日本に実現可能な外傷センターとは ―香港、韓国の外傷センター視察を通して― 日本外傷学会雑誌 27(2) : 198, 2013.

総説

- ・三上容司：韓国・香港外傷センター視察報告 日整会広報室ニュース
第92号、平成25年1月15日

シンポジウム・パネルディスカッション開催協力

- ・第62回東日本整形災害外科学会 2013/9/19～21、軽井沢
パネルディスカッション 外傷センターの制度化は可能か
座長 新藤正輝、井口浩一
演者：益子邦洋、森村尚登、土田芳彦、黒住健人、前隆男
土田芳彦：日本における外傷センターの理想型
黒住健人：諸外国の外傷診療状況

5) 運動器の健康に関する広報事業

担当理事 新井 貞男 担当委員 土原 亜子

① 広報季刊誌「Moving」の7、8、9、10号の4冊を発行

平成24年度に引き続き平成25年度も季刊(2, 5, 8, 11月)で4号を発行した。好評のフロントページは宇宙飛行士の若田光一さん、俳優の仲代達矢さん、俳人の黛まどかさん、パラリンピック水泳選手の成田真由美さんを取材、「私と運動器」について語ってもらった。また、当協会の参加団体の活動状況を順次紹介するコーナーでは順次6団体を紹介した

年度内の発行数は各4万の計16万部、うち15万4千部を配布した。

② BJD ロゴマークバッジの頒布

BJDバッジ(2010～2020)を年度内、有償配布は250個、914個を無償配布した。

③ 協会活動紹介パンフレットの配布

2月の河合伸也・新理事長の就任に伴い、協会活動内容紹介パンフレットを新たに5千部作成。全国各地で開かれる市民公開講座等に年度内2千部余りを配布した。

④ 特別賛助会員の広報協力

i. 久光製菓(株)

久光製菓(株)の協力で、運動器を広く周知するため制作していた「ご存知ですか 運動器」の24年度の改訂版を25年度には157冊を配布した。

また、少年野球の肘や肩の障害を予防するため、「毎週月曜日はセルフチェックの日」として肘の曲げ伸ばしに異常がないか確認する資料を5万部制作、年度内は少年野球指導者講習会などを通じて19,695部を配布した。当協会のホームページからもダウンロードできるようにした。

また、当協会季刊誌「MOVING」制作、配布の支援を受けた。

ii. エーザイ(株)

2005年に発刊した、まんが本「大人も知らないからだの本」がその後も好評で、2013年1月に第2版をエーザイ(株)の協力を得て2万部発行。年度内に小学生を対象にしたグループや一般の希望者に5,782冊を無償

配布した。また、当協会季刊誌「MOVING」制作、配布の支援を受けた。

iii. 第一三共(株)

当協会季刊誌「MOVING」の制作を支援、年度内全国各地で開催された学会や市民公開講座で、季刊誌の制作、配布協力を得た。

6) 成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

① 担当委員会の構成

委員長	高岸 憲二 (群馬大学医学部)
副委員長	別府 諸兄 (聖マリアンナ医科大学整形外科学講座)
同	植松 光俊 (星城大学大学院健康支援学研究科)
委員	岩間 徹 (岩間整形外科)
	岡部 敏幸 (掛川市立総合病院リハビリテーション科)
	坂本 雅昭 (群馬大学大学院保健学研究科)
	田鹿 毅 (群馬大学医学部)
	田和 一浩 (全日本野球協会)
	帖佐 悦男 (宮崎大学医学部)
	正富 隆 (行岡病院)
	松浦 哲也 (徳島大学医学部)
	宗像 豊巳 (全日本軟式野球連盟専務理事)
	渡邊 幹彦 (大脇病院)

② 委員会開催

第1回 4月21日(土) 如水会館

③ 事業の概要

i) 指導者講習会の開催 (平成24年度からの継続事業)

全日本軟式野球連盟と協議し、全国9地区で指導者を対象にした講習会を実施した。なお、指導者講習会は同連盟のシーズンオフに開催することになったので東京(平成24年12月1日)以外は平成24年度事業の継続として以下の9地区11会場で実施された。

開催計画と派遣講師は以下の通り。(上段はスポーツ整形外科専門医、下段は理学療法士) *は全日本軟式野球連盟で派遣講師の経費を負担する。

北海道(札幌) 船越 忠直 (北海道大学医学部整形外科・講師)
2月3日(日) 元木 純 (松田整形外科記念病院)

東北(仙台) 高原 政利 (泉整形外科病院・副院長)
2月10日(日) 三浦 雅史 (青森県立保健大学理学療法学科)

関東(栃木) 筒井 廣明 (昭和大学藤が丘リハビリテーション病

院・教授)

- 3月3日(日) 坂本 雅昭(群馬大学大学院保健学研究科・教授)
- 北信越(長野) 岩間 徹(岩間整形外科)
- 3月24日(日) 児玉 雄二(相澤病院スポーツ障害予防治療センター)
- 東海(愛知) 岩堀 裕介(愛知医科大学整形外科・教授)
- 2月10日(日) 小林 敦郎(順天堂大学医学部附属静岡病院)
- 近畿(奈良) 正富 隆(行岡病院・副院長)
- 2月16日(日) 田中 健一(医療法人Nクリニック)
- *近畿(大阪) 正富 隆(行岡病院・副院長)
- 3月31日(日) 田中 健一(医療法人Nクリニック)
- 中国(広島) 鈴木 修身(広島大学病院整形外科・診療准教授)
- 2月2日(土) 篠原 博(サザンクリニック整形外科・内科)
- 四国(徳島) 松浦 哲也(徳島大学医学部整形外科・講師)
- 2月24日(日) 吉田 浩通(鴨島病院)
- *九州(福岡) 原 正文(久恒病院・院長)
- 2月16日(日) 小松 智(鶴田整形外科)
- 九州(宮崎) 帖佐 悦男(宮崎大学医学部整形外科・教授)
- 1月20日(日) 常磐 直孝(川越整形外科)

ii) 指導者講習会の開催(平成25年度事業)

全日本軟式野球連盟の主催する少年野球指導者講習会に引き続き2年目の講師派遣を実施した。講習内容について、前年度の反省からドクタ一部分を少し短縮、60分とし、理学療法士による実技部門を15分延長し、60分とした。

なお、今年度の講師派遣事業は全日本軟式野球連盟の申請によりスポーツ振興くじの助成対象となったので当協会の講師派遣経費は不要となった。平成25年度中に実施される講習会は以下の通り。

- 九州(熊本) 井出 淳二(熊本大学医学部附属病院・教授)
- 11月30日(土) 小松 智(鶴田整形外科)
- 中国(岡山) 名越 充(名越整形外科医院・院長)
- 12月22日(日) 篠原 博(サザンクリニック整形外科・内科)

iii) 指導者講習会共通教材の修正

昨年度制作した指導者講習会の共通教材について、第1回委員会で意

見交換の結果、理学療法士担当部分をもう少し平易にするよう、一部内容を修正して講師に配布することとした。

iv) セルフチェックの資料作成

かねて取り組んでいた少年野球の選手たちのスポーツ外傷の早期発見のため、児童・生徒や指導者、保護者が日々の活動現場でできるチェックマニュアルについて、特別賛助会員の久光製薬㈱の支援が得られ、A4版の資料を今年度5万部制作、協力が得られた。

「土日の試合の後、毎週月曜日はセルフチェックの日」を励行するよう、各地の指導者講習会でドクターから配布する。

v) 検診体制の整備とデータ収集（継続審議）

野球少年の投球障害などに対し、早期発見・治療を目指すため、各地で先行例として行っている検診について、検診内容を検討し、検診の基礎項目を整理した。

全国共通で実施できる体制づくりを目指す。これらの検診データを集約して今後のエビデンスとして活用できるよう、関係者に周知を図る。

vi) 講習会講師派遣

年度内一般から申請のあった下記の成長期のスポーツ外傷予防に関する講習会に講師を派遣した。

① 2月10日（日）神戸市少年団野球リーグ指導者講習会

派遣講師；大阪・行岡病院 正富 隆 副院長

神戸市内の少年団野球リーグ指導者約400人を対象に座学を実施

② 8月2日（金）兵庫県篠山市立西紀中学校

派遣講師；京都府立医科大学大学院・森原 徹 講師

夏季休暇中に同校運動部活動に参加している生徒約60人を対象に座学と実技を実施した。

4. 「運動器の10年・日本賞」の公募、表彰

1) 24年度入賞者の表彰

24年度の公募で入賞した11件の関係者を招き、1月25日（金）に明治記念館で表彰式を行った。表彰式には当協会理事、監事、評議員をはじめ特別賛助・賛助会員各社など51名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金の目録が贈られた。入賞者は次の通り。（敬称略）

運動器の10年・日本賞 山本 智章（新潟リハビリテーション病院）

「成長期投球障害予防のための組織及びシステムの構築」

同 ・優秀賞 佐々木信之（佐々木整形外科麻酔科クリニック）

「被災地健康運動支援とロコモ予防ソング」

- 同 ・優秀賞 藤井 勤 (身体教育医学研究所うんなん)
「子どもから大人まで、すべての人々の運動器が健康になるまちづくり」
- 同 ・奨励賞 小柳 磨毅 (一般社団法人アスリートケア)
「高校生における学校保健に支援事業」
- 同 ・奨励賞 奥村 栄次郎 (東京都臨床整形外科医会)
「TCOAによる運動器の10年・骨と関節の日啓発活動」
- 同 ・奨励賞 鳥川 寛子 (地域いきいきクラブ)
「運動器の手入れ・改善の意味の理解と日常的実践につなげるために」
- 同 ・奨励賞 倉澤 隆平 (社会福祉法人みまき福祉会)
「誰もが「動く喜び 動ける幸せ」を共に感じることができる遊歩道整備の取り組み」
- 同 ・奨励賞 菅 栄一 (カシオペア転倒予防研究会)
「高齢者運動器機能検査を取り入れた運動器機能維持事業」
- 同 ・奨励賞 中村 崇 (佐久平整形外科クリニック)
「小・中学校における運動器教育 - 関節磨きと姿勢指導の取り組み」
- 同 ・奨励賞 松平 浩 (関東労災病院)
「新たな視点に立った21世紀型・腰痛予防対策の開発とその普及啓発の推進」
- 同 ・奨励賞 帖佐 悦男 (宮崎大学医学部)
「宮崎における運動器に関する啓発支援事業」

2) 25年度の選考結果

25年度の公募に対し、10月21日(月)の締め切りまでに全国から22件の応募があった。審査は当協会の理事5名と賛助会員(ゴールド)2社から次の通り審査に加わってもらい、10月24日(木)に審査委員会を開催して厳正な審査を行った。審査委員と審査結果は次の通り。

審査委員 松下 隆 (専務理事)、武藤 芳照、稲波 弘彦、新井 貞男
三上 容司 (以上理事)
寺西 勝司 (小野薬品工業株) 田中 明生 (中外製薬株)

表彰者

- 運動器の10年・日本賞 宮山 広美 (千葉市若葉保健福祉センター)
「地域の運動(ラジオ体操)グループづくりと健康づくり」
- 同 ・優秀賞 東山 礼治 (英志会渡邊病院整形外科)
「学校の運動会における「ムカデ競走」に伴う外傷予防への取り組み」
- 同 ・優秀賞 橋爪 洋 (和歌山県立医科大学整形外科)
「エビデンスに基づく高齢者運動器疾患予防体操プログラムの開発と効果検証」
- 同 ・奨励賞 宮腰 尚久 (秋田大学大学院整形外科学講座)
「寝たきり予防の高齢者運動器検診」
- 同 ・奨励賞 西村 明展 (三重大学大学院スポーツ整形外科)

- 「ウォーキング教室・スロージョギング教室」
- 同 ・奨励賞 市川 徳和（医療法人永島会永井病院）
「地域における高齢者健康増進活動の取り組み」
- 同 ・特別賞 風間 深志（障害者アクティブ・ロコモーションズ・ジャパン）
「希望を見つめる障害者の冒険・キリマンジャロ登山とゴビ砂漠ラクダキャラバン」

上記入賞者には日本賞（50万円）、優秀賞（25万円）、奨励賞（10万円）と今回の特別賞には15万円をそれぞれ贈り、平成26年2月1日（土）に同じく明治記念館で表彰式を行う。

5. BJD国際本部との連携

1) BJD国際会議

7月11日（木）から13日（土）までブラジルのリオデジャネイロで「2013ワールドネットワークカンファレンス」が開催され、岡田真平理事と内尾祐司・学校保健委員会委員長の2人が参加した。

参加した両氏から、「BJD-NANの各国が協力して行動し、運動器障害のプライオリティを高める働きかけを進めようという雰囲気の中で日本の立ち位置を考えさせられた。日本は少子高齢化社会のトップランナーであり、これまでの活動の成果として、健康・教育政策の中での運動器の位置づけを高めつつあることから、国際的に還元できる情報があると思われた。また、BJD全体として活動に有用な質の高いツールの開発等が進んでおり、今後も情報を得ながら、国内組織強化に活用していくべきであろう」との報告があった。

2) e-posterの提出

7月に、2013年の諸行事についてe-posterにまとめ、BJD国際本部に提出した。

主な内容は、運動器の10年・日本賞の創設、学校の健康診断の見直しについて文部省に提言、スクールトレーナー制度の創設、季刊誌「MOVING」の発行で宇宙飛行・若田光一氏をフロントインタビューで掲載など。

6. 旅費規定の改正

財政健全化を進める事業の見直しの一環として、現行の旅費規定について、第4回理事会（11月7日）と第4回評議員会（12月8日）の審議を経て以下の通り改正した。

1) 理事、監事、評議員

- ① 国内交通費のうち、グリーン料金適用を50kmから100km以上に改定
- ② 国内宿泊費の1泊18,000円を15,000円に改定

2) 各種委員会委員

- ① 国内交通費はグリーン料金を適用せず、特急指定席料金を支給
- ② 国内宿泊費は理事、監事、評議員と同額の1泊15,000円とする。

7. 運動器関連事業申請の許可

年度内、以下の運動器関連事業の後援申請があり、許可した。

- ① セミナー「ロコモ対策 運動器疾患／骨・関節フォーラム (25年度4件開催)
共催>都道府県臨床整形外科医会、中外製薬(株)、(株)メジカルビュー社
- ② 第9回東北腰痛フォーラム (4月6日開催)
主催>小野薬品工業(株) 企画協力>東北腰部脊柱管狭窄研究会
- ③ 「学校運動器検診」研修会 (6月15日(土))
岩手県臨床整形外科医会
- ④ 第13回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー (協力依頼)
主催>一般社団法人 日本整形外科スポーツ医学会
8月24日(土) 東京医科歯科大学
- ⑤ 「10月10日は転倒予防の日」広告共同事業 (10月10日 朝日新聞全国版)
転倒予防医学研究会